

令和4年度第1回
佐世保市総合計画審議会
会議要旨

【日 時】 令和4年11月14日(月) 13:30～15:40

【場 所】 佐世保市役所本庁舎5階 庁議室

会 次 第

1. 開会
2. 企画部長挨拶
3. 議題
(1) 各政策・施策の内容と令和3年度の決算を踏まえた次年度に向けた
主な改善の方向性について
4. 閉会

○出席委員 13名
欠席委員 6名

【資料】

- ・資料1 佐世保市総合計画審議会の委員の役割
- ・資料2 第7次総合計画の政策・施策体系
- ・資料3 第7次総合計画「政策・施策シート」(次年度に向けた方向性)
- ・資料4 第7次佐世保市総合計画へのご意見・ご質問について

会議要旨

1. 開会

2. 企画部長挨拶

3. 議題

- (1) 各政策・施策の内容と令和3年度の決算を踏まえた次年度に向けた
主な改善の方向性について

～事務局より内容説明 「しごと」分野～

【飯田副会長】

観光分野については、始めに九十九島の知名度が上がらないという課題を悩んでいる。ハウステンボスや佐世保バーガーの全国認知度は90%を超えているとの調査結果であるが九十九島の全国認知度は過半数に満たないところである。本市の観光業界の各方面から認知度向上に資する方策に期待をいただいております、認知度向上に努めていく必要があると考える。

一方で本市の観光客に対する受け入れについては、本市の海軍鎮守府開設以降に全国から人が集まって形成された成り立ちから外からの人を開放的かつ友好的に迎え入れる特性を持っているのではないかと考え、この部分を観光面でも発揮できるように観光施策に取り込み、おもてなしの機運をしっかりと伸ばしていけたらと思っている。

また、させぼ産品については、農協の取り組みによりミカン栽培農家などのさせぼミカンのブランド化が成功している事例があると聞き及んでいる。ミカンが成功した要因としては、味覚の数値化と管理に併せて発送できる体制が整ったことではないかと思慮し、この取り組みは他分野でも大いに参考とできるのではないかと。本市にはもっといいものもたくさんあるのではないかと考えており、ブランド化により全国的に展開することで本市観光における食の部分に寄与し、併せて本市の農業に携わる人材も増え、相乗効果が生まれるのではないかと期待している。

最後に観光施策におけるKPIについて本市のKPI達成状況には大きく乖離がある状況である。コロナ感染症が終息しないため、観光業界は大いに影響を受け続けており、今後の状況によっては、令和6年度からの後期基本計画において違った視点でのKPI設定の検証も必要ではないか。かなり難しい問題であるがコロナ禍以前の数値に戻るかは日々の努力に併せ、どのようなことが必要か深く検討する必要があると考えている。

【横山委員】

しごと分野に限らず全分野に対して意見を提出している背景をまずもって説明さ

せていただきたい。

私は、今年度「SASEBO未来デザイン会議」のコーディネーターを務めており、佐世保市にゆかりのある16歳の高校生から38歳までの社会人の計58人規模で若者会議を進めているところである。本市は人が流出する方に傾いている状況であり、参加する若者たちは佐世保市を何とかしたいとの熱意をもって取り組んでいるところである。

本日は、その会議の中で出た意見を紹介し、総合計画に少しでも多く反映していただきたいと思っている。

【船山委員】

観光政策について収入を増やすことは必要だと思う。例えば佐世保駅前から船に乗り、白浜や平戸方面に向かうなど、海から佐世保のまちを巡る観光があったら他都市にはない特徴になるのではないかな。

観光施策として、観光PRや広報面を重点化するのではなく、臨場感を味わえる観光体験が可能なメニューがあればいいと感じている。

また、若者の声に関連して、四ヶ町アーケードでハロウィンのイベントを若者が中心となって開催されていたが、こうした取り組みは他にはない動きではないかと感じた。そこで、小さな組織や個人レベルでもいいので、自発的に行いたいことを応援する制度を設け、制度が定着することで若者や近所の方など生活する人々が日常的には埋もれている才能を発揮でき、わくわくするような街となるのではないかと考える。

【藤川委員】

次年度への取り組みの中でSNSの発信を強化するとあったが、SNSを活用した情報発信の中では、若者の間ではインスタグラムとティックトックが主流となっているため、このツールを用いた手法でぜひ行っていただきたい。

【折原委員】

農業振興については、新規就農者のKPIは達成とのことであるが新規就農しても続かなければ厳しい状況に変わりなく、ウクライナ情勢などによる燃料等高騰の影響を受けており、生産者が所得を上げていくことは大変厳しい状況となっている。

農産品のブランド化への取り組みについては、新規就農者も増えている状況であり、観光業界との連携も図っていきたい。

【西岡会長】

観光においては、九十九島の認知度向上については、限られた予算の中でどのように展開していくかが肝要ではないか。

若者視点では、横山委員がコーディネーターを務めるSASEBO未来デザイン会議でたくさんのアイデアが出ているとのことであり、このような会議が将来の佐世保にどのように作用していくか非常に楽しみである。

次世代の若者たちがどういうところに興味をもって活動していくのか。あるいは影響力をもって取り組んでいけるのか。若者が中心となって、地域を支え盛り上げていけるのかを大事な視点とし、本市の基幹産業である観光産業をどう伸ばしていくのかを議論いただいた。

～事務局より内容説明 「ひと」分野～

【横山委員】

若者会議の中で、新たな施設を新設せず、廃校や廃公民館を活用し、放課後の子どもたちの居場所、中高生の勉強スペース又は健康づくりの施設にリニューアルしたいとの意見が出ているところ。例えば、中高生の勉強スペースの確保については、昔は家で勉強するのが当たり前であったが現在は外で友達と一緒に勉強や図書館などに籠っての勉強というスタイルに変わってきている。勉強できる場所について本市では図書館などに限られており、十分なスペースを確保できていない状況にある。

【藤川委員】

2点意見があり、1つ目はファミリーサポート制度である。子どもが小さな時に利用し、非常に有効な取り組みと感じたが、周知に課題があるのではないかと。ぜひ広報・周知を強化していただきたい。

2つ目は学校教育についての報告である。国のギガスクール構想について、市内の小中高生に1人1台パソコンを導入しており、3年が経過した。その中で先生や生徒の利用が促進されたところであり、授業のオンライン化により不登校の生徒がリモートで受けられるようになり、授業中の瞬時の集計や生徒のプレゼン能力の向上など大きな成果があったと捉えている一方で、市内他校では、このような取り組みが実施できていないなどムラがあるようなので、引き続き、先生などへの指導やアドバイスを実施いただきたい。

【西岡会長】

横山委員からは若者会議で提案があった3つの取り組み内容について、行政での予算面等において、制約がかかる中で廃校などを活用する企画案の説明内容であり、本市がおかれている状況を勘案した適切な内容であったのではないかと。思う。

藤川委員からはファミリーサポート制度をご自身が活用した経験と本市への広報の強化のご意見をいただいた。

また、ギガスクール構想では、子どもたちがITを使用できる状況になってきた。引き続き、学校側が乗り遅れることなく取り組んでほしいとのご意見があった。

【横山委員】

若者会議の中でも樋渡委員のご意見と同様の意見があっており、中央公園に日陰となる場所が必要ではないかとの議論もあっているところ。

石木ダム建設については、関係機関に属する立場からの意見であるが相浦工業団地の利用方がどうなっているのかとみてみると、先般のシーサイドフェスティバル開催時の臨時駐車場であり、団地を全面的に使えた状況であった。これは本市における水事情の弱さであり、誘致ができないことの現れではないか。このような状況を皆さんの力で打開できないか、県の力で解決できないかとのことである。

若者会議の中では、サイクリングロードの提案があっているが、本市には歩行者が歩けないような道路も数多くあり、その中で合併町地区などは過疎債を使えば3割負担で道路を拡幅できるため、そのような取り組みができないかと考えているところ。

また、佐世保駅前金曜日の夜から月曜日の朝までにゴミが散乱し、汚くなっているとの経験談が紹介され、あまりにも汚いので有償のボランティアで解決できないか。他には、SDGsのイベントや衣類資源の再利用、プラスチックの再利用等も併せて検討しており、環境にやさしいまちづくりを実現できないか議論しているところ。

【樋渡委員】

中央公園について、オープン当初は賑わっていたが今は閑散としている状況も垣間見えるので、カフェなど今後の経営状況を危惧しているところ。若者のアイデアが加わり、より良い公園になればと期待している。

【船山委員】

個人的見解になるが、名切はつまらなくなっていると感じている。子どもが花園の中学校に通い、四ヶ町周辺に住んでいたため子どもが小さな頃は名切によく遊びに行っていた。何を目的としていたかといえば、川を楽しんでいた。少量の水ではあったがたくさんの人で賑わっていた。新たな中央公園ではそのような仕掛けがないためそのようなものがあれば人が集まってくるのではないかと。

衣類やSDGsの話があつたが、先日、中学校の制服等を売買するイベントに参加し、たくさんの人が集まっていた。このようなニーズは確かにあったということを補足させていただきたい。

【西岡会長】

横山委員の発言では若者の感性による瑞々しい意見であったと感じた。

中央公園については、樋渡委員から閑散としている状況ではないかとの意見があつた一方、事務局の説明では当初の公園施設（メリッタKIDS）利用目的の月間1万人は概ね想定どおりとの説明もあっているところ。実は私が所属する長崎県立大学のゼミ生徒が委員の疑問と同様の思いを抱いており、本日から1週間をかけて、中央公園の運

営企業の協力を得て、3人がかりで利用者アンケート調査を始めたところである。集計結果については、追って行政の方へも情報共有させていただきたい。

～事務局より内容説明 「くらし」分野～

【横山委員】

若者会議の中では、障がい者や高齢者との共生の視点を持ち、様々な方々との共生を目指したいとの意見が出ている。この実現には、様々な方が抱える障がいなどを理解することを目的とした双六を作ったらどうかとの提案があっている。止まったマスによって目が見えないことや右手が使えない等の疑似体験をしながら双六のゴールを目指すというものであり、遊びを通じて、多様な視点を持ちたいとの思いである。

【西岡会長】

横山委員から若者会議の説明があり、ユニークな意見であったと感じた。

～事務局より内容説明 「行政経営」分野～

【村山委員】

宇久の活性化について、宇久地域はご承知のとおり合併して佐世保市になった経緯があり、海が非常にきれいな島であり、第1次産業として、農業分野が盛んで繁殖牛の経営がうまくいっている。8月には宇久と小値賀に訪問し現況を視察し、小値賀は各種取組により社会増となった一方で宇久は人口減少に歯止めがかかっていない状況である。何等かの取り組みが必要であると認識し、県北振興局でできることと佐世保市でできることをしっかりと座組を組み、宇久の活性化に向け議論を始めたところ。その中で、まずは宇久においてプレーヤーが必要であり確保していくことが重要である。移住施策の推進等を通じた振興政策を実施し、基幹産業である水産業をしっかりと育てていくことを重点的に協力して実施していきたいと考えているので、関係する各分野の皆様にはご理解いただきたい。

【横山委員】

宇久の活性化については、若者会議の中で高校2年生が宇久のアイランド構想として、地域を活用した婚活イベント実施等のアイデアを検討しているところ。

【西岡会長】

宇久の活性化について議論をいただいた。他にご意見がないようであれば、これで終了する。

以 上